

## 実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	東日本大震災の復興から学ぶ土木工学
団体名	山梨県立都留興譲館高等学校
代表者	水越 哲也

(目的) 本校環境工学科は、土木・化学の2つの専門教科を学び、より広い知識と視野を持った技術者育成に取り組んでいる。しかし、土木の魅力や必要性は、授業では伝えきれない部分が多くある。その中でも、構造物を造る、補修するといった技術に繋がる授業はある程度確保できるが、防災・減災や復興についての授業内容は非常に少ない。土木技術のさまざまな役割や仕事としての魅力の中でも、自然災害が頻繁に発生する現在では、防災・減災については特に注目すべき内容である。

生徒は、東日本大震災以降多くの自然災害について実際の経験や知識はほとんどなく、土木の復興技術や防災・減災技術を知ることがない。土木技術が広い分野で活躍する事を再認識させ、土木に従事する者の大きな役割を知り、土木への興味関心、意欲を高め、入職促進へと繋げたい。

(概要) 福島県内における当時の震災状況と現在、そして復興を続ける現地を見学し、学習した。自然災害の恐ろしさと向き合い生きてなければならない私たちができる事が見えてきた。土木が果たしてきた、果たすべき事の偉大さを知り、土木の学習への向き合い方、進路について深く考察できた。

## 【1日目】

福島県双葉町にある「東日本大震災・原子力災害伝承館」では、地震、津波、原発の複合災害の記録と教訓を学んだ。シアター、展示、施設周辺の見学や説明により、災害前後の町の変化を知り、被災直後の様子や被災者の苦難、長期化する原子力災害の影響や今なお続く復興について学習した。

震災遺構である「請戸小学校」の見学では、被災当時の変化しない姿を目の当たりにし、津波の威力の大きさを感じた。当時、この場所に居た生徒・教員が全員無事避難できた事は、日頃からの災害に対する意識の重要性を知った。

「東京電力廃炉資料館」においては、原子力発電所の事故と廃炉作業について学習した。展示や映像、詳細な説明を聞くことによって、これまで知らなかったさまざまな事実を学んだ。

宿泊施設の「Jヴィレッジ福島」は、震災後、復興拠点となった場所でもあり、当時の状況を知ると同時に復興する福島のさまざまな想いを感じながら、過ごすことができた。

## 【2日目】

「富岡漁港の復興について」と題し、富岡町役場の佐々木邦浩様より、情報館「リプルンふくしま」にて災害から現在までの歩み、想い、これからについてご講義をいただいた。その後の富岡漁港に場所を移し、復興現場の視察となった。津波から町を守るための巨大な堤防や道路建設など、復興途中ではあるが、土木技術の大きな役割を知る事ができた。

2日間を通し、自然の力の大きさを知ると同時に土木ができるさまざまな役割を知った。山梨は福島と環境が異なるが、多くの自然災害が想定される。自然と向き合い、地域の為に活躍したいという目標をもった生徒もいた。今回の研修は、今後の学習、土木系進路選択の一助となる有意義な活動となった。